



## 鐵骨組立を竣つた帝室博物館

新に造營される東京帝室博物館は、先年帝室博物館復興翼賛會が日本趣味を基調とする東洋式建築である事を條件として懸賞募集の結果一等に當選せる渡邊仁氏の設計案に多少の變更を加えたもので、總延坪約6,000坪、高さ地上約100尺の大建築である。鐵骨鐵筋コンクリート造で、耐震耐火の點特に留意し通風、採光、換氣、濕溫度の調整等理想的に設計せられてゐる。

昭和7年宮内省内匠寮に帝室博物館造營課が設置され北村耕造氏が課長となられ、同年暮に工事に着手し、此程寫眞に示す様に漸く鐵骨の組立が完成した。700萬圓の巨費と5年の日子を要する大建築であるだけに出來上つた骨組だけを見ても頗る老大なもので完成後の偉觀を忍ばせられる。

博物館は繪畫、書蹟、彫刻、應用美術、考古學的資料、建築資料等古代の貴重なる美術品を容れるものであるから、其構造には勿論特別の注意が拂われ、壁は全部二重となり、窓及出入口には鐵扉が降り、全館恰も堅牢なる金庫の如く仕上げられる。又館そのものが一つの紀念的建造物となるので外觀の仕上げも入念になされるのは云ふ迄もない。

この建物が完成するのは昭和12年の暮で、開館の運びを見るのは昭和13年末の見込である。寫眞は組上つた鐵骨と模型。



